

3部 雲仙普賢岳噴火災害の健康影響

序

竹本 泰一郎

火山噴火の健康影響は高温の火山性噴出物への接触・吸入による健康被害がまず挙げられる。1991年6月3日の大火砕流によって43人もの痛ましい犠牲者が出たことはまだ記憶に新しいところである。これらの犠牲者の救護活動や緊急避難時の健康管理に対する地元医師会や医療機関の活動について改めて敬意を表したい。噴火活動が終息の兆しを見せず火山性噴出物による環境汚染が続いている今日では、将来にわたる住民の健康擁護のためには、火山活動に由来するガスや粉じんの慢性的な暴露による健康影響の評価とそれに基づく健康管理が不可欠と考えられる。このことから、ここでは火山災害の健康影響をまず大気汚染による健康影響を中心として検討を試みた。

雲仙普賢岳災害では緊急避難状態が長期にわたって持続していることが大きな特徴である。本報で健康影響を身体的状態とともに精神・心理的要因の影響を受けやすい自覚症状や愁訴からの評価を試みたのも、これらによって避難生活の心身両面への健康影響がより明確化されることを期待してのことである。

健康・保健面での危機管理或は災害保健の研究は、まだ端緒についたばかりである。本報での知見も多岐にわたる健康影響の極く1部分に過ぎず、現在も長崎県・島原市との共同調査を実施中である。これらの結果や健康・生活影響に関する他研究の知見を併せて、被災地住民に対する総合的な健康管理体制を構築していくことが医学・保健面での大きな課題である。